

会議記録

名 称	南丹市中学校給食在り方検討委員会〔第4回〕	
開催年月日・開催場所	平成23年12月9日（金） 午後1時30分～午後3時10分 南丹市役所 2号棟 301会議室	
出席者名	委 員	(出席委員) 大谷貴美子、松本明美、辻村美春、中藤昌明、小森 誠、 山崎賢司、山崎幸代、植田理恵、松村雅枝、渡邊春幸
	事務局及び 庁内 PT 委員	(事務局) 森教育長、西田学校教育課長、西田学務係長、野中主事 坂瀬総括指導主事（庁内 PT 委員等） 教育総務課（山口課長補佐） 社会教育課（松村社会教育主事）
傍聴人	なし	
配布資料	資料1 「南丹市教育の在り方懇話会第3回会議録」 「中学校給食教育の在り方検討委員会」中間まとめに対するパブリックコメント実施結果 資料3 同上「中間まとめ」に対する市政懇談会・市学校評議員会交流会・市PTAでの意見・感想	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会宣言 2 教育長挨拶 3 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・南丹市教育の在り方懇話会第3回会議の概要報告 4 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回会議の概要報告〔報告：事務局〕 (2) 「中学校給食教育の在り方検討委員会」中間まとめに対するパブリックコメント等の実施経過と概要報告 (3) 中間まとめに対するパブリックコメント等の意見・感想を踏まえた答申に向けた考え方について 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回懇話会の開催日時の確認 6 閉会 	
会議の経過	別紙のとおり	

■教育長あいさつ■

ご多用の中、第4回検討委員会に出席賜りお礼を申し上げます。

これまでの3回の議論をまとめ、中間まとめという形で各方面からの意見照会を行った。

出された意見は後ほど説明するが、中学校給食を実施することに関して反対する意見はなく、すべて中学校給食の実施に向けた意見であった。

焦点となっているのが、家庭弁当の意義を中学校給食の中にどのようにとり入れるのか、ということであり、ぜひ家庭弁当の意義を中学校給食の中で生かしてほしい、との意見があるという状況である。今日各本面からの意見を報告するが、弁当の意義を踏まえた位置付けをどうするかについて、次回の最終答申に向け、議論を詰めていただきたい。中間まとめをベースにしながらか肉付けを図ってほしい。

■報告事項■

(1) 第3回会議の概要報告（事務局）

資料1「南丹市教育の在り方懇話会第3回会議録」のとおり

質疑等なし 承認

(2) 中間まとめに基づいたパブリックコメント等の実施経過と報告（事務局）

資料2「中学校給食教育の在り方検討委員会」中間まとめに対するパブリックコメント実施結果

資料3「中間まとめ」に対する市政懇談会・市学校評議員会交流会・市PTAでの意見・感想に基づき説明

■協議■

- 「中間まとめ」に対する様々な意見感想を踏まえて、年明け2月に予定している答申書の策定に向けた協議となる。事務局から中間まとめに基づいたパブリックコメント等の実施経過と報告を受けたので、これらの意見を踏まえて論議を深めたい。

これまで「今日の中学生に求められる食生活の視点から」、「南丹市の特性を生かした学校給食の視点から」、「弁当の意義を踏まえた学校給食の視点から」の3つの視点から協議・検討を行ってきたが、「今日の中学生に求められる食生活の視点から」については、パブリックコメントでもさほど問題はなかったようであるし、ほぼ議論がつくされたと思う。今日は主に3つ目のテーマである「弁当の意義を踏まえた学校給食の視点から」の意見をいただきたいと考えている。この3つ目のテーマに入る前に、2つ目のテーマである「南丹市の特性を生かした学校給食の視点から」についてももう少し議論の余地があると思うので意見をいただきたい。

「南丹市の特性を生かした学校給食視点から」

- 南丹市の特性を生かした給食、地産地消の推進は、ことばでは簡単に言えるが、実際どういう点に留意したらよいと思うのか意見を聞きたい。これまでの議論の中で「食材を供給する体制ができていない」という話があったがその辺について聞きたい。

○ 旬にものを旬に時期に提供することは可能である。旬の期間なら収穫量もあるので本市の特産物を提供できる。その時期が終わってから、あるいは年間を通しての提供は、保存・保管の問題があるので難しい。

○ 保管の問題は課題としてあげておく。

○ 美山では鹿が獲れる。鹿肉を使ったメニューを市統一メニューとして計画したが、園部、八木には信仰の観点から鹿肉を食さない地域もあり、実施を見合わせた。地域の特性があるので配慮しながら献立を作成している。それぞれ地域の食文化の違いがある。信仰は別にして、それをすこしずつ共通なものにしていきたい。また、野菜を多く摂るよう進めていきたい。

○ 4つの調理場があり、それぞれ別のメニューで実施されているが、今後統一メニューにする等の方針はあるのか。

→ 中学校給食実施の基本的な内容に関わる話であるが、4つの町でそれぞれ特色ある給食を実施しており、現時点では4調理場の一体的な運営は難しいと考えていて、統一的メニューの作成などについては今後の課題である。

○ 南丹市の地元食材を生かした給食を進めることは大切なことであるが、日本の食文化を知らせるという視点も必要と思う。たとえば、ちくわの磯辺揚げ、鯨の竜田揚げなど、特に鯨料理は今のこどもは知らないかもしれないが、年配者なら食した経験がある。こういう日本の食文化を子ども達に伝えていくことも大切だ。

○ 旬の食材を使うということなら何も問題はないが、安価で栄養価の高いものを子ども達に知らせていくということも大切である。それと国際教育ということで、海外の食材を使うという機会もあってもよいと思う。

○ 調理場毎で献立を作成されていて、先ほど美山の鹿の献立が紹介されたが、そういう機会を通じてそれぞれの地区あるいは南丹市の特産物や文化や歴史の紹介をしていくような取組を進めることも大切だと思う。

○ 今あったように4つの調理場が独自に取り組まれているということだが、常に幅広い内容で研究されていて、郷土食もあるし、海外食もある。特色のある給食が行われている。

そういう中でどこまで中学校給食に反映できるか、わからないが、今後も取組を広めてほしい。

○ 中学生女子にはダイエットをする子もいる。ダイエット食をメニューに入れて、作り方を紹介し、食べたあと、家でも作ってみたいと思えるような取組ができればよいと思う。

○ ‘米のおいしさ’を知らせることが大切である。この観点から新潟県内ではふりかけを禁止しているところもあると聞いている。

○ 「南丹市の特性を生かした学校給食の視点から」の協議はこのくらいとする。

弁当の意義を踏まえた学校給食の視点から

○ つづいて3つ目のテーマ「弁当の意義を踏まえた学校給食の視点から」について意見を求める。前回の内容を「中間まとめ」としているので、この点について、中間まとめの意見を含め、今後、取り入れるべき点、留意すべき点について意見交換を行いたい。

○ 前回は弁当の話であったが、子ども達の心身の発達のために、また、親子の絆を深めるために弁当は有効だと思う。

○ 中学校では弁当を親と一緒に作る子もいる。自分で作ったり、作ってもらったりする中で親子関係の絆が深まる。

○ 給食の実施回数ほどのくらいか。基準があるのか。融通がきくのかどうか。まずそれを確認することが大事である。融通がきくのであれば給食を実施しながら弁当の日を何回か入れることができる。

→ 文部科学省の学校給食実施基準の中に実施回数が見られている。

第2条「学校給食は年間を通じ、原則として毎週5回、授業日の昼食時に実施されるものとする。」と規定されている。したがって、「原則として毎週5回」という基準を踏まえた上での運用ということになる。

○ 前回、土曜日はクラブ活動で弁当を持ってきているという話があった。

○ 中学校のクラブや運動会等の学校行事を中心に設定してはどうか。年数回はできると思う。

→ パブコメの意見は「小学校と同様行事の時に位置付けていくのが適当だ」であった。

○ 弁当の日の設定には、作れない、作ってもらえない子をどう考えるか、という問題がある。辛い思いをする子があることも想定しておく必要がある。

○ 弁当の日については、親が作る前提なのか、子どもが作る前提なのか、議論する必要がある。

○ 前回の協議内容にあった「南丹市健康づくり推進協議会」の提案では、子どもが食材を買うところから、子どもが弁当を作るところまでを狙いとする、ということであった。そういうこ

となら定期的な取組が望ましい。

- 前回の提案は、事前に学校にお願いし、子ども達にも了解を得る中で、小学校高学年の児童に、調理機会を与えるなどの経験を積ませ、段階を踏んで、最後は自分で作らせる、という内容であった。毎月19日は食育の日ということで、この日を弁当の日にしてはどうか。月1回ペース、自分で弁当を作らせることができないか。
- 中学生は技術家庭で食物の学習を行っている。だから、弁当を作ろうと思えば作れる。でも、親が作らせていない。親が料理をせずにスーパーで買ってそのまま食べられるものを食べている家庭が多くなってしまった。給食実施によって、親の料理離れ、弁当離れが進むことも考えられる。そこで週に1回ぐらい弁当の日を設けてはどうか。
- 美山中学校では中学校給食スタート時、週1回の家庭弁当であったが、親の要望ですぐに毎日給食になった。このような経過から、週1回より月1回の方が現実的で続けやすいと思う。
- 弁当の日を設けようとする動きが全国各地で見られる。これは「弁当の意義」と「食育」がセットになっていて、家庭科実習とも連動している。弁当の日の回数は月1回ぐらいが適当でないかと思う。
- 回数については、週に1回や月に1回毎月19日という案が出ているが、どちらがよいかは、教育課程の中に位置付け、子ども達がいずれは作るということで回数を決めればよい。
- 4中学校同じ回数が望ましい。違いがあると作るのが大変だからといって毎日給食に戻ってしまう。
- この地域では大学や就職をして下宿する人が多いと思うが、ある程度自分の健康管理ができるように力をつけておく必要がある。
- スウェーデンでは生活者としての力をつけることに力を注いでいて、小学校の調理実習では、1人に1台の調理台があてがわれている。理由を聞くと、そうしないと見ている子は見ているだけで終わるから、ということであった。
- 昨年度のアンケートで給食に関わり「子どもの食事作りは家庭の役割だ」という回答が11%あった。回数は別にして弁当の日は残していくこと。
- 保護者は昼食だけをつくっている訳ではないのだから、日常生活があるので必ずしも弁当だけが唯一の機会ということにはならない。そういう意味では何回にするにせよ弁当の日はあってもよいのかな、と思う。中学生なのだからできれば自分で作る、そのうち友達のものを見てすこしずつメニュー数を増やしていけばよい。回数は別にして弁当の日を作っていくというこ

とは皆さんの意見の方向であると思う。

○ 弁当の日を一斉に行うのか或いは学校毎に行うのか、その辺はどうか。

→ 弁当の日に回数がバラつくと保護者からの意見が予想されるとの話があったが、回数は教育課程上の判断、すなわち学校長判断となる、学校によりばらつきが出ることもありうる。最終答申には「たとえば弁当の日として 19 日を位置付けるなど」という例示を行うことになるが、答申自体は非常に重いものであると認識している。その辺のことを踏まえ検討を深めてほしい。

○ それぞれの実態・地域性があるので弾力的な運営が図れるほうが良い。

○ 弁当の日を設定しても、「学校での子どもの昼食は給食に任せる」という流れは変わらない。条件整備をすすめながらであるが「19 日は給食の日」とかを決められると実態に即した対応という面ではやりにくい部分があるかもしれない。子ども達が自分で作れるようになることは大事だし、将来下宿することになる子も多い。中学校の段階ですこしでも自分で調理ができるようになる機会を持たせたい。

○ すぐに早起きをして弁当を入れることは難しいが、3 年の間に徐々に自分で弁当が入れられるようにできたら良い、ということを目指して取り組んではどうか。それまでは親の入れた弁当も「よし」として、3 年間という期間を使って自分で弁当が入れられるように取り組めればよいと思う。

○ 「南丹市健康づくり推進協議会」では、小学校高学年の子ども達に弁当が作れるように、地域連帯の取組として進めていきたいと考えている。

○ 何らかの形で弁当の日は残すということは異論がないと思う。今回の協議で本検討委員会の方向性を示すことになる。各校長に判断は任せることになるが、月 1 回程度の弁当の日を提言するのか、あるいは、弁当の日を市内一斉に設定するのがよいのか、その辺はどうか。

→ 協議いただいている内容はいずれも教育課程上に位置付けられた学校の取組である。したがって弁当の日を学校ごとに設定しようが統一しようが学校の教育課程上の課題となる。

○ 生徒の心身の自立を促すために学校の教育課程に弁当の日を位置づける、そういうことを含めた方が先ほどから出ている 3 年間で自立を目指すことが明確になる。

○ 実際に作り方がわからないと、店に売ってある弁当がどういう過程で作られたのか想像がつかない、そのことは健康の問題や安全性の問題につながってくる。料理に対する知識・技能をつけることは自らの健康を守っていくことにつながる。

○ これをもって本日の会議を終えるが、次回は今回の会議を踏まえた「答申書」案についての協議となる。以降の進行を事務局に返す。

→ 次回、最終回の開催を2月10日（金）午後1時30分から行いたい。

■閉会■